

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------------|-------------|
| 事業所番号 | 4079500122 | | |
| 法人名 | 有限会社 亀ハウス | | |
| 事業所名 | グループホーム 亀ハウス | | |
| 所在地 | 〒822-1314 福岡県田川郡糸田町3122番地3 | Tel 0947-26-3434 | |
| 自己評価作成日 | 令和06年02月19日 | 評価結果確定日 | 令和06年03月31日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|------------------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会 | | |
| 所在地 | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 | Tel 093-582-0294 | |
| 訪問調査日 | 令和06年03月06日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑のアピールポイントである月に1～2回の外出行事も感染リスクを考え以前のように行われていませんが四季の変わり目や折々の花などの見学は少しずつですが行っております。外食会につきましては、感染される恐れがある為行われていませんが外出行事の際は所々で食事を購入し外で食事をして頂き、また月に1回お弁当の日を設け利用者様一人一人が食べたいお弁当を選んで頂いています。また、利用者様からの外出希望等があった際は、その都度対応出来るよう取り組んでおります。日々の生活の中で、利用者様に寄り添い安心・安全で当苑での生活を楽しんで頂けるよう努めております。また今年には、以前行っておりました亀ハウス祭り及び夕涼み会を計画し利用者様が楽しんで頂けるイベントを計画し、そして地域の方にも参加して頂き、関係を深めて行けるよう努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建ての「亀ハウス」は、定員18名の地域密着型グループホームである。ホーム前の広場で毎年行われる糸田町神幸祭の山笠競演会を目の前で見物する事は、利用者の大きな楽しみである。提携医療機関医師の定期的な往診と訪問看護師、介護職員の連携で、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心して任せられる医療体制が整い、利用者や家族の希望に応じて看取りも行っている。配食サービスを提供し、弁当持参の職員と一緒に食べる楽しい雰囲気のある食事の時間である。介護主任、副主任を中心に、経験の長い職員が定着し、利用者に優しく寄り添い、元気で明るい笑顔を取り戻した利用者を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係が構築されている、グループホーム「亀ハウス」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|--|---|
| 58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝、朝礼時に職員全員で復唱し共有している。 | ホームが目指す介護理念を、見やすい場所に掲示し、出勤職員が理念を、毎日の朝礼時に唱和して、職員は理念の意義や目的を理解して、利用者と「楽しみや喜び、悲しみや悩み」を分かち合い、馴染みの地域の中で利用者一人ひとりが、安心して暮らせる支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常の挨拶は常に行っている。また回覧板を回して頂き地域の情報を共有している。 | コロナ対策が続き、地域との交流は減っているが、回覧板を回したり、道で気軽に声を掛けて挨拶を交わす等、日常的な交流が行われている。地域包括主催の「たぎりカフェ」に参加したり、豊寿園で行われる夏祭りや運動会に参加する等、コロナ状況を判断しながら、取り組んでいる。 | コロナ収束後はボランティアや家族の協力を得る等、人員配置を工夫して、地域の行事や活動に参加したり、ホームの行事に地域住民を招き、交流を深めることを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方がいつでも相談出来る体制は整えている。また、日頃より積極的に声を掛けさせて頂き、馴染みの関係性を作るよう努めている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で会議の開催は出来なかったが、現在は2か月に一回開催し情報の共有に努めている。 | 運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、民生委員、町役場福祉課職員、地域包括支援センター職員の参加を得ている。ホームの運営や活動、利用者状況、今後の予定を報告し、参加委員からは、質問や要望を受けて検討し、ホーム運営や介護サービスの向上に反映させている。 | 参加委員の増員を図り、会議内容についても、テーマを決めた話し合いや近隣の他事業所と合同で行う等工夫をして、地域密着型事業所として、高齢者が住み易い地域づくりにも繋がるような会議運営を期待したい。 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に参加して頂いている。また相談事などがあった際は、連絡を行ったりし指示を仰いでいる。 | 運営推進会議に糸田町役場福祉課や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取組を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。管理者は、行政窓口空き状況や事故報告を行い、分からない事があれば電話やメールで尋ねている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 道路に面し危険な為、玄関の施錠は行っているが要望などがある際は直ぐに対応できるよう努めている。また、身体拘束を行わないよう職員間で話し合いを設け対応している。 | 外部研修や法人内研修、スタッフ会議の中で身体拘束について学ぶ機会を得て、職員が確認する機会を設けている。また、身体拘束廃止委員会を、各ユニットから2名と施設長が入って、3ヶ月毎に実施し、具体的な事例等について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部での研修への参加は現在出来ていないが来年度から地域包括センター等が主催される行事や研修も再開される予定の為積極的に参加する。また、苑内では研修会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | 6 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 自立支援事業・成年後見制度において研修の場を設け全職員が理解し取り組んで行けるよう努める。 | 外部研修や内部の勉強会の中で、権利擁護の制度について、学ぶ機会を設け、職員は制度についての理解を深めている。また、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度について説明し、申請手続きが出来る体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう支援している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に施設長から説明して頂き、理解して頂いている。契約書は一部交付している。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常生活の中で、利用者様・御家族からの要望・不満は管理者・各職員が対応している。また会議などで話し合う機会を設けている。 | ホームの日常会話から、職員は利用者の意見や要望を聴いて、日常介護に反映させている。コロナ状況を判断しながら、家族の面会時や電話等で職員が家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、苦情等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。 | |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は日々職員からの意見などは聞き取れる体制を作っている。また、会議などで意見を聞き対応している。 | 職員会議を毎月開催し、職員から意見や提案等が活発に出ている。出された意見や要望、気になる事等について検討し、出来ることから速やかに実行している。また、日頃から申し送りや業務中にも職員間で話し合い、会議以外の場においても、常に職員の意見を聴く機会を設けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員から要望などが出た際は、施設長が個人面談を行い対応している。 | | |
| 13 | 9 | ○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 採用は、施設長が面接を行い判断されている。年齢・性別は等の制限はなく、各職員はそれぞれの能力に応じて仕事に取り組んでいる。 | 職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲や人柄を優先し、採用後は外部研修や資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員の意欲に繋がる就労環境を目指している。職員休憩室を男女別に整備し、休憩時間や希望休、勤務体制に配慮して、職員がリフレッシュしながら働ける職場である。 | |
| 14 | 10 | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 月に1回勉強会を設けて取り組んでいる。 | 利用者の人権を尊重する介護の在り方を、内部の勉強会の中で学び、振り返る機会を設けている。なるべく自宅に居る様に、その方らしく過ごしてもらうために、利用者一人ひとりの思いを丁寧に聴き取り、職員は「利用者のために」を常に意識した介護サービスに取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 他への研修会への参加は、現在出来ていない為今後取り組んでいく。苑内では日々気づいた時や勉強会等でケアの質の向上に努めている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の施設との交流は現在行っていないが、電話などをし情報の共有は行っている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居される前に施設長・管理者が面接を行い情報・状態の把握を行う。その後、職員へ伝達し本人様が安心出来る環境を整えていくよう努めている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設長・管理者が御家族との話し合いの場を設け、要望等を聞き取り、その後職員へ報告し対応し良い関係性を築けるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設長・管理者が本人様・御家族との話し合いを設け、意見などを聞きその後職員へ報告し話し合いを行い対応している。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の職員一人一人が利用者様と接する時間を大切にしている。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 感染予防の為、現在もマスクの着用・多少の面会時間の制限を設けている。御家族との関係性を大切にする為情報などは常に連絡などを取り、情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人等の来苑があった際は、マスクの着用及び時間制限を設けているものの面会できている。また、本人様が大切な馴染みがある場所などは途切れないようその都度対応している。 | 新型コロナ5類移行に伴い、利用者の友人、知人が面会に訪れる等、馴染みの人との関係が継続出来る支援に取り組み、家族の協力を得て帰宅したり、お墓参りの送迎を手伝う等している。携帯電話で、親しい人と自由に連絡を取り合ったりして、利用者の馴染みの関係継続の支援に取り組んでいる。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事・おやつの時間、レクリエーションの時間などを通じ自然に利用者様同士が関われる環境を作っている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 定期的に以前の利用者様の御家族から連絡を頂いたり、お手紙を頂いたりしている。また、以前利用されていた利用者様の御家族からの紹介という形で問い合わせなどがある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様一人一人の話をよく聞き、意見・要望が出た際は柔軟に対応できている。困難な場合は、御家族と相談し対応している。 | 職員は、日常会話の中から、思いや意向を把握している。「映画が観たい」「お酒が飲みたい」「買い物に行きたい」等、言葉にされた時には、家族の了解を得て実現している。意向表出が困難な利用者には、入居時の聴き取りやアセスメントから利用者本位に検討している。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 御家族や地域包括センター職員、または以前利用されていたサービス事業所などに連絡し情報把握に努めている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様一人一人の1日の過ごし方を把握し、落ち着いた日々を過ごして頂けるよう、利用者様ペースに合して職員一人一人が取り組んでいる。また、朝・夕にバイタルチェックを行い状態把握を行っている。 | | |
| 28 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | スタッフ会議を設け話し合いながら作成している。また状態の変化などが見られた際は、その都度御家族と連絡を取り相談し作成している。 | 利用者や家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員会議や担当者会議の中で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医、訪問看護師と話し合い、利用者本位の介護計画をその都度作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人一人の状態の変化を個人ケース記録に記載し、情報を共有し介護計画を作成している。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様・御家族と話し合いを設け、本人様に合ったサービスを提供している(特養・サ高住など) | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 以前、地域包括センターが主催されていたカフェ等が来年度より開催されるため、積極的に参加して行く。地域との関りを持てるよう地域資源を活用し、利用者一人一人が楽しんで頂けるよう努めていく。 | | |
| 32 | 14 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している | 入居前に利用者様・御家族にかかりつけ医等の情報を頂き、要望があれば継続して受診支援を行っている。 | 利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。ホーム提携医療機関医師による月2回の往診と週1回の訪問看護師、介護職員が連携し、利用者の小さな変化も見逃さず、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月に2回の往診と週に1回の訪問看護を受けている(糸田町立病院)。また、利用者様の状態に合わせて訪問看護(リアンとアース)を利用している。事前に相談などを行い、協力医療機関(糸田町立病院・一本松すずかけ病院・見立病院など)の受診支援を行っている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 現在も入院中の面会は出来ないが週に1回は電話での状態確認を行い、または必需品などを持参した際に担当看護師・ソーシャルワーカー等との面談をし状況確認を行い早期退院に向けて取り組んでいる。 | | |
| 35 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 御家族・施設長・管理者・医療機関・訪問看護との話し合いを設けて、十分に説明を行いながら方針を共有しながら対応している。 | 契約時にターミナルケアについて、利用者や家族の希望を聴き取っている。ホームでの看取りの希望が増え、訪問看護師による看取りの研修を実施して介護体制を整え、看取りの支援に取り組んでいる。家族とホーム、主治医、訪問看護師、介護職員が、利用者の最善の終末期を迎えられるようにチームで支援に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時・事故があった際は、主治医・管理者へ連絡を行い指示を仰ぐよう徹底している。また職員は急変時等に対応出来るよう勉強会などで訓練を行っている。 | | |
| 37 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時などの際は、地域の方・消防署への応援要請が出来るよう働きかけている。職員は、避難訓練を行い身につけている。 | 非常災害を想定した避難訓練を年2回実施し、2階の利用者9人を夜勤者1名で安全な場所に避難誘導することの難しさを理解し、近隣住民や近隣に住んでいる職員に協力を要請し、利用者全員を安全に救出できるように取り組んでいる。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | 17 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様一人一人の人格を尊重した上で声掛け・介助を行っている。 | 利用者のプライバシーを守る介護のあり方を、職員は外部研修や内部の勉強会の中で学んでいる。特に、排泄や入浴の場面では、声掛けや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の生活の中で利用者様一人一人との関係を大切にし、思いや希望などを言える関係性を築き自己決定出来るよう支援している。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様一人一人の生活リズムを把握し、利用者様のペースに合わせたケアを心掛ける。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2か月に1回理・美容師が来苑され散髪を行っている。また希望があれば美容室へも行けるよう努めている。定期的にショッピングへ行き好きな衣服などを購入して頂いている。 | | |
| 42 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様・職員と一緒に食事を摂り、会話を交えながら食事時間を楽しくて頂けるよう努めている。また食事後は一緒に片付けを行っている。 | 配食サービスを提供し、職員は弁当持参で利用者と一緒に楽しそうに食べている。職員不足の中でも、月1回の外出に出かけ、ユニット合同外食会としてうどんを食べに行く等、利用者の気分転換を図っている。食器洗いや食器拭き等、熱心に手伝ってくれる利用者がいて、役割や楽しみ事の支援に繋げている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 主治医・栄養士の指示のもと対応している。また、食事量・水分摂取量を把握し努めている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後職員付き添いで口腔ケアを行っている。 | | |
| 45 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間を計り、声掛けを行い排泄促している。 | 職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミング良く声掛けや誘導を行い、利用者が重度化しても、トイレで排泄支援に取り組んでいる。また、利用者に合わせてオムツやリハビリパンツ、パットの使い方を研修し、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 栄養士の指示のもと食事を提供している。また、運動・水分補給を十分に行い便秘予防に努めている。排便が確認できない際は、主治医の指示のもと薬を使用している。 | | |
| 47 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者様の一人一人の状態を見ながら、週に3回は入浴できるよう努めている。利用者様一人一人の希望時間など合わせた入浴は現在困難だが、入浴時間を少しでも楽しんで頂けるよう努めている。 | 入浴は利用者の希望や体調に配慮して毎日入ることも可能であるが、最低でも週3回は楽しい入浴支援に取り組んでいる。入浴は、利用者と職員が一对一でゆっくり話せる貴重な時間と捉え、本音で話し合っている。入浴拒否の利用者には、時間を変えて声掛けし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活リズムを把握し、日中は身体を動かして頂き、夜間良く眠って頂けるよう努めている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様一人一人の薬の種類や注意点などが記載された用紙で確認することで職員一人一人が理解し、服薬介助・管理を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様一人一人に合わせた役割を行って頂いており(食器吹き・洗濯物たたみなど)、一人一人が好きなこと・散歩などを行い気分転換を図っている。 | | |
| 51 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は散歩を行い、またドライブサービスを行い気分転換を図っている。また、希望があればお墓参り等を利用者様の希望に添えたケアを行えるよう努めている。 | 新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、紫陽花等、季節の花見に出かけ、映画館に映画を観に行ったり、買い物、ドライブ、お墓参り等、利用者や家族の要望は出来るだけ叶えたいと支援に取り組んでいる。薬を取りに行くついでにドライブを楽しむ等、戸外に出かけ、利用者の気分転換に繋げている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭トラブルになりうる為、金銭に関しては施設の金庫にて管理しているが希望があればその都度対応している。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を使用したい際は、職員に伝えて使用して頂いている。手紙を出す際は、職員付き添いで近くのポストへ行かれる。 | | |
| 54 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた飾りつけを行っている。また、日差しなどはカーテン・ブラインドの調節を行っている。 | 家庭的な雰囲気のリビングルームでは、仲の良い利用者同士が談笑し、利用者と職員が制作した季節毎の作品や利用者の記念写真を掲示し、温かい明るい雰囲気である。また、テレビの音や照明、温度や湿度、臭いにも注意し、利用者一人ひとりが、穏やかに気持ち良く過ごす事のできる共用空間である。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個室の為、独りの時間を作って頂いている。また、他の利用者様食堂にてゆっくり自由時間を過ごすことができる。 | | |
| 56 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人様・御家族と話し合い慣れた物を使用して頂いている。無い方については、御家族に相談し購入して頂いている。 | 入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が自宅で使っていた馴染みの家具や布団、テレビや冷蔵庫等を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、その人らしい部屋作りを心掛け、利用者が安心して居心地良く過ごせる居室である。 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ・浴室には分かりやすいように表札を付けている。また、手すり等を完備し安全に生活して頂けるよう努めている。 | | |